

財政収支(2017年1-5月)

(1) 2017年1-5月における歳入は前年同期比10.5%増。法人税や付加価値税の伸びが大きく、税収は14.3%の増加となった。

(2) 歳出面では、経常移転が前年同期比30.8%増加するなど、歳出全体では20.2%の増加となった。

(3) 財政収支は115億リラの赤字となり前年同期から大幅のマイナス。プライマリーバランスは57.2%減少し、142億リラの黒字。

データ:財務省 単位:百万リラ

歳入・歳出内訳	2016年(A)	2017年(B)	増加率 ((B-A)/A)
歳入(a)	230,934	255,263	10.5%
税収	183,358	209,648	14.3%
所得税	38,678	42,593	10.1%
法人税	20,248	26,668	31.7%
付加価値税(国内及び輸入)	51,412	58,873	14.5%
特別消費税	44,082	49,377	12.0%
その他税収	28,938	32,137	11.1%
税外収入等	47,576	45,615	▲4.1%
歳出(b)	221,869	266,757	20.2%
人件費	63,807	68,574	7.5%
物品及びサービスの購入	17,779	21,218	19.3%
経常移転	88,677	116,021	30.8%
資本支出	10,091	14,564	44.3%
支払利子(c)	24,186	25,710	6.3%
その他歳出	17,329	20,670	19.3%
財政収支(a-b)	9,065	▲11,494	▲226.8%
基礎的財政収支(a-(b-c))	33,251	14,216	▲57.2%

経常収支(2017年1-4月)

(1) 2017年1-4月の経常収支は、前年同期比5.8%減少し、116億ドルの赤字。

(2) サービス収支は、前年同期比28.3%の増加。うち旅行収支は同11.3%の増加。

データ:中央銀行 単位:百万ドル

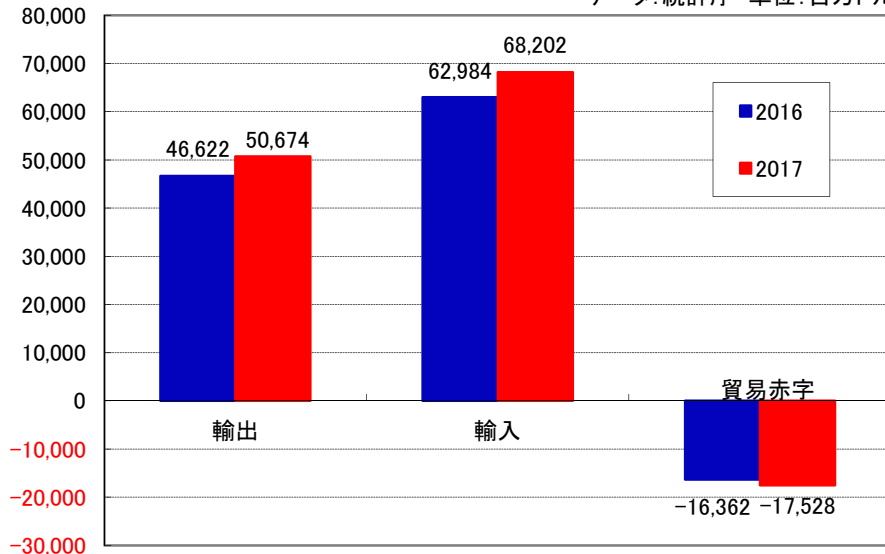
内訳	2016年(A)	2017年(B)	増加率 ((B-A)/A)
経常収支	▲10,959	▲11,596	▲5.8%
貿易収支(物品)	▲11,240	▲11,965	▲6.5%
サービス収支	2,531	3,248	28.3%
旅行収支	2,606	2,901	11.3%
その他サービス収支	▲75	347	562.7%
第1次所得収支	▲3,095	▲3,353	▲8.3%
第2次所得収支	845	474	▲43.9%
労働者送金	163	145	▲11.0%
その他第2次所得収支	682	329	▲51.8%
資本移転等収支	15	▲8	▲153.3%
金融収支	▲10,082	▲17,804	▲76.6%
直接投資	▲2,500	▲2,365	5.4%
証券投資	▲6,441	▲7,676	▲19.2%
その他投資	▲3,665	52	101.4%
外貨準備	2,524	▲7,815	▲409.6%
誤差脱漏	862	▲6,200	▲819.3%

貿易収支(2017年1-4月)

(1) 2017年1-4月の輸出額は507億ドル(前年比8.7%増)、輸入額は682億ドル(同8.3%増)となり、この結果貿易収支は175億ドルの赤字(同7.1%減)となった。

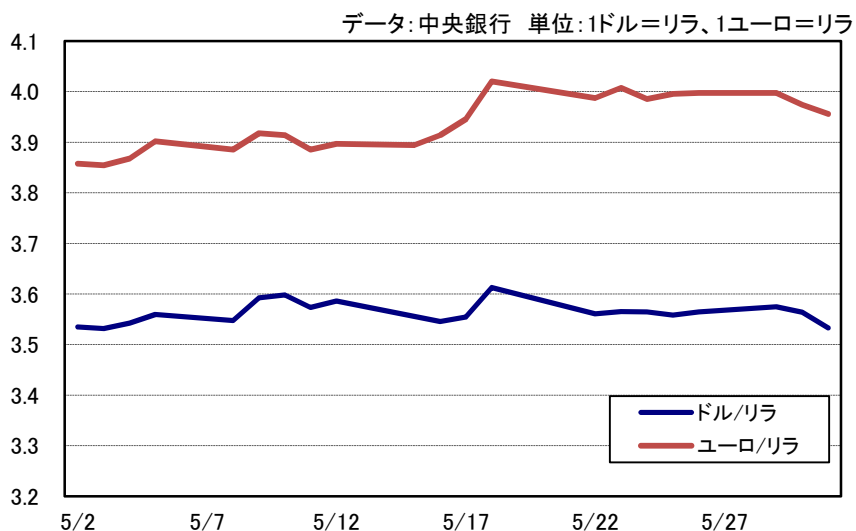
(2) 2017年1-4月の輸出額におけるEU向け輸出の占める割合は46.1%(前年48.0%)、輸入額におけるEU向け輸入の占める割合は36.0%(同39.4%)となっている。

データ:統計庁 単位:百万ドル



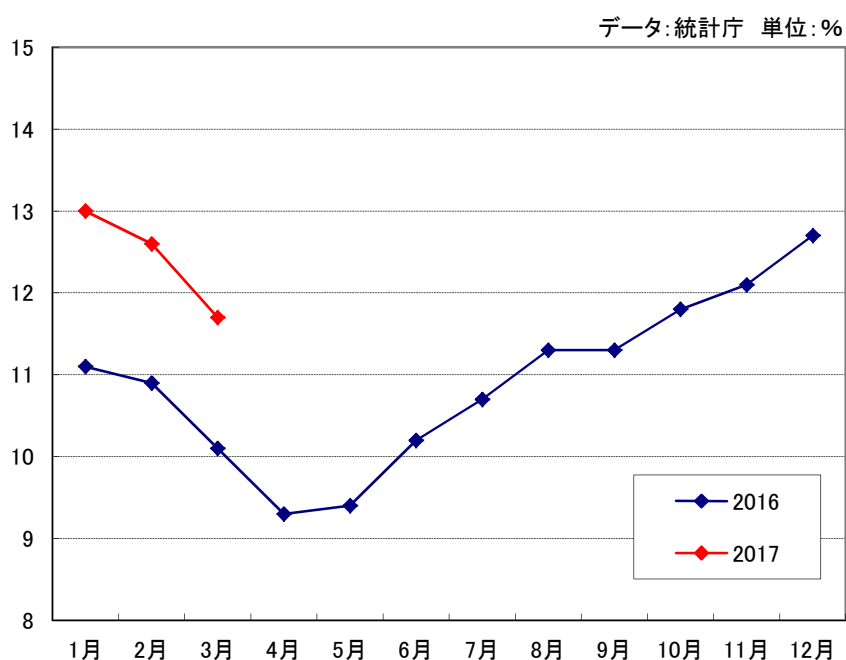
為替(5月)

(1)5月のドル・リラ相場は、月を通して比較的安定的な動き。最終的には、1ドル=3.53リラとなった。
(2)ユーロ・リラ相場は中旬以降、ユーロが堅調に推移し、1ユーロ=3.95リラで越月した。



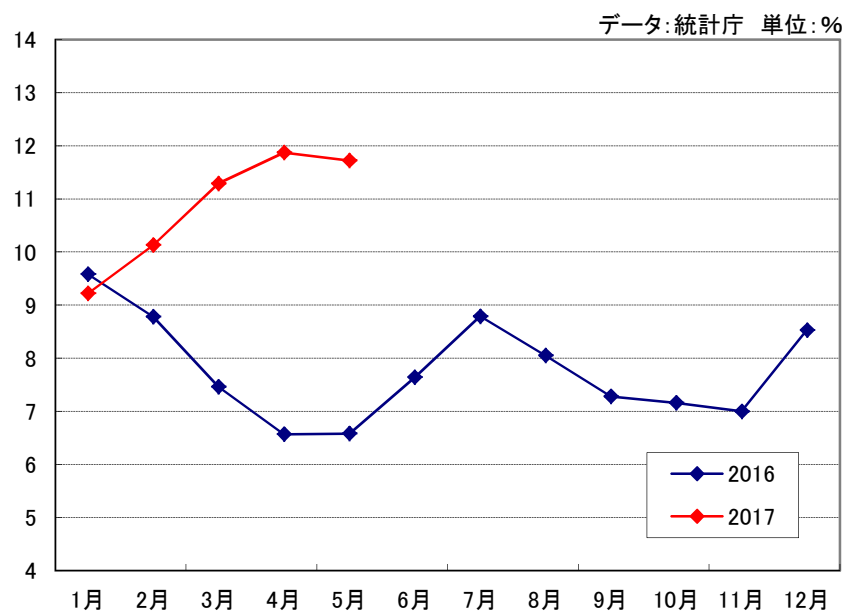
失業率(3月)

(1)2017年3月期の失業率は、11.7%。前年同期からは1.6ポイントの上昇、前月からは0.9ポイントの下落。
(2)労働力人口は3,113万人、就労者数は2,749万人、失業者数は364万人。
(3)男性の失業率は10.5%、女性は14.3%。若年層(15-24歳)の失業率は21.4%となっている。



物価上昇率(5月)

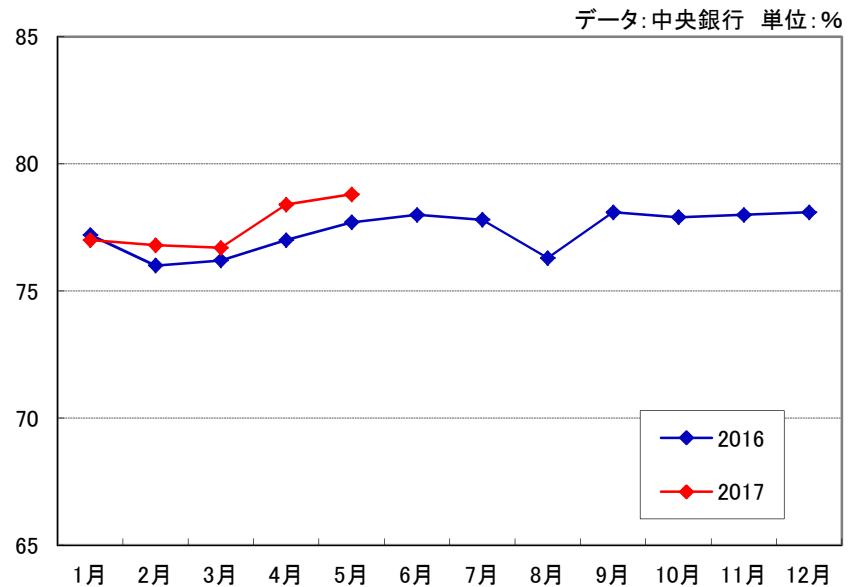
(1)2017年5月の消費者物価は前月から0.45%の増加。年間では11.72%の上昇。
(2)分野別に見ると、前月と比べて最も上昇したのは衣類・履物類で5.97%。年間で最も上昇したのもアルコール飲料・タバコで21.69%。
(3)本年末の中銀見通しは8.5%。
(4)国内生産者物価指数は前月から0.52%上昇し、年間で15.26%の上昇となった。



設備稼働率(5月)

(1) 2017年5月の設備稼働率は78.8%となり、前月から0.4ポイントの上昇。前年同月からは1.1ポイントの上昇となった。

(2) 製造業の分野別では、自動車、トレーラー及びセミトレーラー(87.7%)が最も稼働率が高く、革及び革関連製品(60.0%)が最も低い稼働率であった。

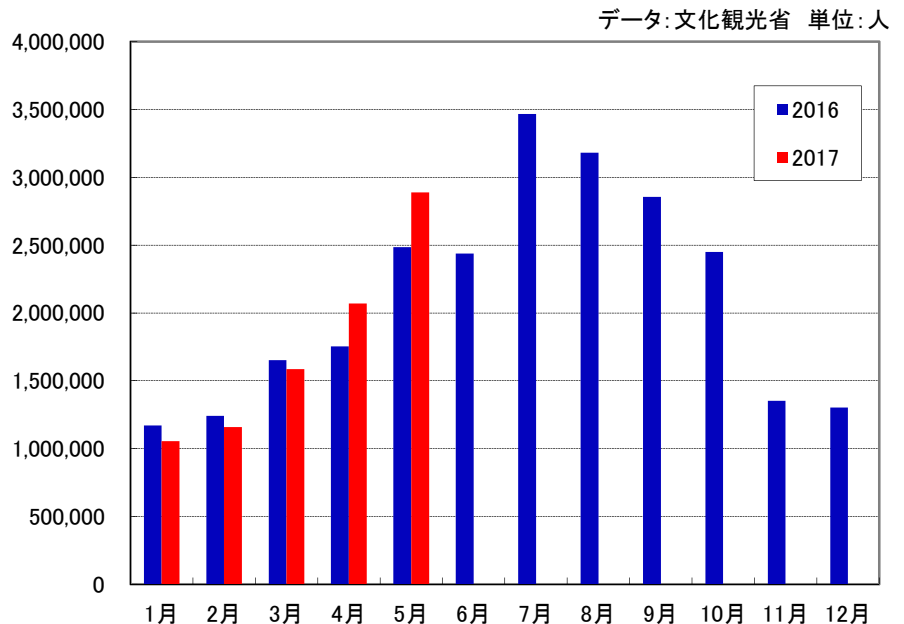


旅行者数(5月)

(1) 2017年5月にトルコを訪れた旅行者は290万人であり、前年同月比16.3%増となった。

(2) 旅行者数を国別に見るとロシアからの旅行者数が最も多く60.8万人で全体の21.1%を占める。以下、ドイツ(29.5万人)、ジョージア(23.5万人)となっている。

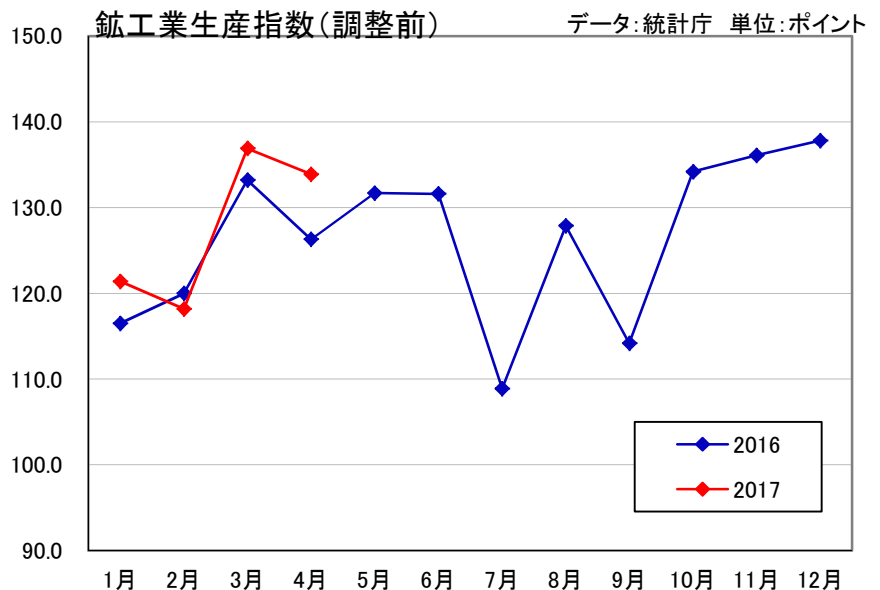
(3) なお、日本からの旅行者は4,018人(前年同月比8.8%減)となった。



鉱工業生産指数(4月)

(1) 2017年4月期の鉱工業生産指数(調整前)は133.9ポイント(2010年=100)となり、日数調整後の前年同月比は6.7%の上昇、季節及び日数調整後の前月比は2.3%の上昇。

(2) 分野別では、資本財が前月比12.2%増、耐久財が同0.5%増となっている。



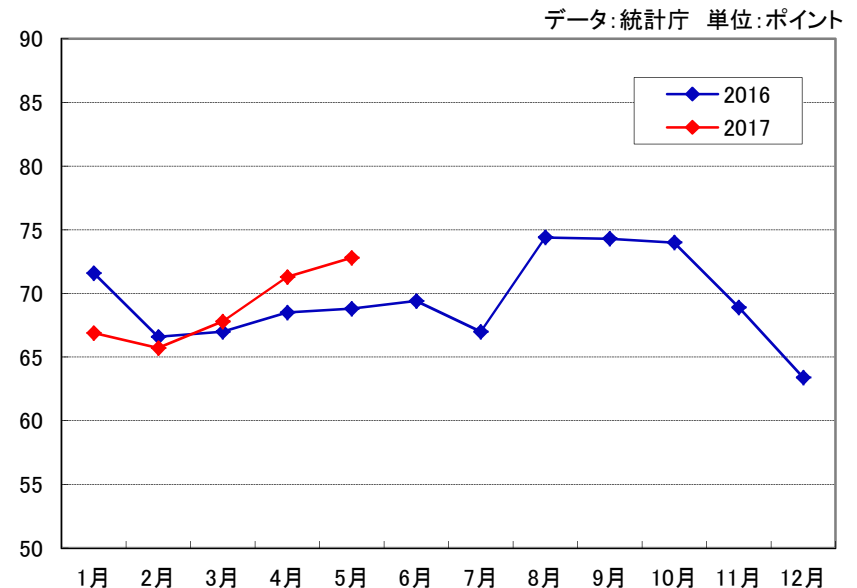
外貨準備高(5月)

(1)2017年5月時点での中央銀行の外貨準備高(金を含む)は1,054億ドルとなった。
 (2)外貨準備高は、近年順調に増加していたが、2012年の水準まで落ち込んでいる。



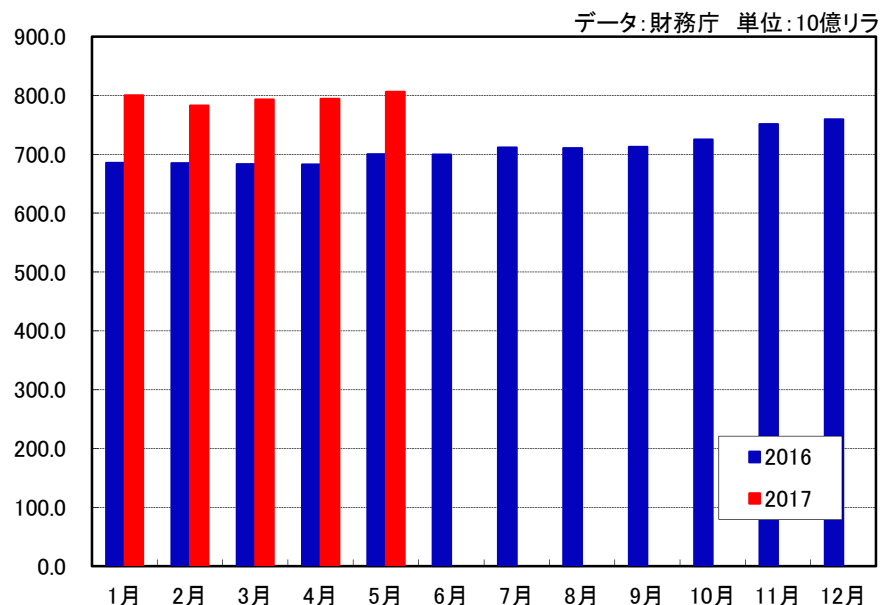
消費者信頼感指数(5月)

(1)2017年5月期の消費者信頼感指数は前月の71.3ポイントから2.1%上昇し、72.8ポイントとなった。
 (2)内訳では、一般経済見通しが4.5%上昇し100.6ポイント、失業者数の見通しが6.9%下落し23.3ポイントとなった。



中央政府債務残高(5月)

(1)2017年5月時点での中央政府債務残高は7,945億リラとなり、前年同期比15.1%増加した。なお、前月比では1.5%の増加となった。
 (2)また、国内債務比率と自国通貨債務比率は共に61.3%となっている。
 (3)なお、円建て外債(サムライ債)の発行により、債務残高のうち円は2.6%で、外貨ではドル、ユーロに次ぐ地位を占めている。



※本資料は、当館がトルコ政府発表資料を取り纏めた参考資料であり、当館がその正確性等を保証するものではありません。